

シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。

4. **論文の訂正**：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. **採択論文**：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. **校正**：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. **掲載**：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1ページにつき和文は5,775円(税込)、超過頁は1ページにつき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. **著作権**：当誌に掲載する著作物の複写、複製、転載、翻訳、データベースへのとりこみ及び送信等の権利は、泌尿器科紀要刊行会に帰属するものとする。
9. **別刷**：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

編 集 後 記

日本 EE 学会に出席するため東京へ向かう新幹線に乗っている。備え付けの某雑誌を読んでいると、「死亡者数が急増する日本：いかに死ぬかを考える社会へ」というコラムが目にとまった。

1970年に71万人であった日本の死亡者数は2000年には96万人となり、2030年には160万人になるという。コラムでは、戦後日本人が核家族化などの影響で「死」を意識する機会を失っていることを指摘し、「生」に執着し「死」を否定的にとらえすぎる異様な状態にあるとしている。

今後は「いかに死ぬか」について考えることが必要な時代となると展望しているが、これからの日本人は、「死」を前向きに受け止め「幸せな死」という古くて新しい感性を再び上手に身につけることが出来るのだろうか。2030年といえば丁度私達の世代が高齢者になる頃と一致している。自分がその感性を身につけられるかどうか心配であるし、もちろん努力もしたいと思う。しかし、それほどの数の死を上手に看取ってくれる環境が整っているのか、現状を見渡すとそのほうが不安である。少なくとも妻よりは早く鬼籍に入りたい。

(小川 修)